

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の―線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい

- 1 優れたコウカを期待する。
- 2 デンゴンを頼まれる。
- 3 シヨウライの夢を語る。
- 4 試合で力をハツキする。
- 5 髪をひとつに束ねる。
- 6 率先して清掃する。
- 7 駅は帰省客でいっぱいだ。
- 8 クラブに所属する。

問二 次のことわざの組み合わせのうち、同じ意味の組み合わせにはア、反対の意味の組み合わせにはイと書きなさい。

- |   |             |              |
|---|-------------|--------------|
| 1 | 口はわざわいのもと   | きじも鳴かずば撃たれまい |
| 2 | もちはもち屋      | 猿も木から落ちる     |
| 3 | ちようちんに釣鐘    | 月とすつぽん       |
| 4 | あとは野となれ山となれ | 立つ鳥あとを濁さず    |
| 5 | とびが鷹を生む     | 蛙の子は蛙        |

二

次の文章を読んで後の問に答えなさい。

私は笑顔の絶えない顔が嫌いです。そんな顔を眼の前になると、とたんにイゴゴチが悪くなる。人生、笑ってばかりもいられないでしょうに、と思います。銀行やデパートや日本旅館などで、ちよくちよくお目にかかりますが、それがたとえ職業上の笑いであっても、あれほど微笑みつづけているのは、イゴゴチが悪くて気持ちが悪い。

I、多くの同胞は好きなようですね。ここで注意すると、笑顔の絶えない人を現代日本において肯定的に語る場合には決まった図式があつて、やたらけらけら笑っている人(笑い上戸)のことではない。II、悲しい体験や辛い経験が山のようにあつたらしいのだが、それらをおくびにも出さずに、いつも柔らかい笑みをたたえている人(断然男より女のほうがびつたりする)なのです。

これとは別に、たしかに、いつも笑っているような顔の人っていますね！顔面の筋肉が笑うようにできているのです。III、梅原猛氏は、ソウトウの努力をしなければ「笑わない顔」を実現することができないようですね。油断をすると、すぐに笑い顔になる。どんなに緊張していても、いったん話し出すと、あつという間に「笑い」へと顔は崩れていきます。はじめそれがとても不愉快でしたが、

ああ、あれはああいう顔面筋肉の構造なのだと思います。D、こういう特殊な場合を除き、笑顔の絶えない顔は、ひとえに努力の賜物なのです。笑うべきだから、それと知って笑おうとしているから、笑っている。しかも、そこに無理があつてはならない。笑いたくもないのに無理やり頬の筋肉を横に引っ張ってみても、わざとらしさが顔面に露出します。そうではなく、どんなに辛いときでも、からだにしみ付いたように、他人を前にすると、自然に笑みをたたえている。IV、よく観察すると、涙で滲んだように眼の奥が光り、うっすらと寂しさが漂う。この国では、こういう女性(とくに若い女性、その中でもとくにきれいな女性)の笑顔を多くの人が好むのです。

それがたとえけなげで美しいとしても、彼女はなぜそういう笑いをまとうのか。まわりの人間が望んでいるからです。そうすると、好かれるからであり、そのことを知って彼女は自分の感情をコントロールしているのです。このことからわかるように、この国では個人のむき出しの感情を嫌う。V、悲しいときに涙を流すこと、暗い気持ちのときに暗い顔をすることを禁じる。自分のマイナスの感情をそのまま表現するのは、失礼なのであり、社会的に未成熟なのです。(中道義道「笑顔の絶えない人」より)

問一

線部①③のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空欄 **I** **V** にあてはまる言葉として適切なものを、あとの **A** **カ** からそれぞれ一つずつ選んで記号で答えなさい。

**A** しかも **I** 例えば **ウ** とくに **E** ところで **オ** でも **カ** むしろ

問三 — 線部 **A** 「それ」が指し示す内容を本文中から八字でぬき出して答えなさい。

問四 — 線部 **B** 「肯定」と同じ意味の言葉として適当なものをあとの **A** **エ** から一つ選んで記号で答えなさい。

**A** 反対 **I** 賛成 **ウ** 否定 **E** 疑問

問五 — 線部 **C** 「おくびにも出さず」の使い方として適切なものをあとの **A** **エ** から一つ選んで記号で答えなさい。

**A** そんな小さなミス対しては、おくびにも出すような言い方はしないでほしい。

**I** 実力に差があったので、試合ではおくびにも出さないで、大敗してしまった。

**ウ** 同じクラスになったが、彼のことを好きだということは、おくびにも出さなかった。

**E** 長年努力を続けているが、なかなかおくびにも出さず、結果につながらない。

問六 — 線部 **D** 「こういう特殊な場合」とはどういうことですか、本文中より十六字でぬき出して答えなさい。

問七 — 線部 **E** 「そのこと」とありますが、具体的にどのようなことですか、本文中の言葉を使って説明しなさい。

問八 本文の内容として正しいものを、あとの **A** **エ** から一つ選んで記号で答えなさい。

**A** 笑顔には常にうっすらと寂しさが混じっているものである

**I** 微笑みは日本においては社会的な成熟と評価できるものである。

**ウ** 世界では微笑みのないむき出しの感情は嫌われるものである。

**E** 周りの人間に好かれるためには顔面筋肉は鍛えておくべきである。

三

次の文章を読んで後の問に答えなさい。

「どうしたんですか」

白バイ警官は、まだ若い青年のようだった。黒いサングラスをかけていたので顔はよく見えなかったが、語り口調は力強く、頼り甲斐のありそうな人に思えた。

父が事態を話すと白バイ警官は、すぐに深々とうなずいた。

「頭を打っているのなら、大きい病院の方がいいでしょう。ここから五、六分のところに、脳外科のある救急病院があります。そちらまで私が先導します」

そう言うと、白バイは突然にサイレンを鳴らし始めた。

「急病人を搬送します。道を開けてください。ご協力をお願いします」

警官は白バイについたマイクを使って、周囲の車に叫んだ。それまでどうしても道を開けてくれなかった車が、はじめた。センターラインがくつきりと見え、一筋の道が出現した。白バイはその道の上を、私たちの車の先導をして走った。そして、まるで海を割ったという聖者のように、次々と車を端に寄せて道を作った。

その姿は、まさしく( a ) だった。なるほど、しーちゃんが憧れるのも、よくわかる。

やがて大きな病院が見えてきた。救急搬送口の前に、白衣を着た医者と看護婦がストレッチャーを用意して待ち構えている。白バイ警官が、無線で連絡してくれたのだ。

車をその前に止めると、すぐさま弟は病院の中に運び込まれていった。両親と妹は、それについて駆け込んでいった。私も後に続こうとしたが、ふと気づいて白バイ警官の方に向き直り、深々と頭を下げた。弟が助かるかどうかはわからなかったが、少なくともこの警官のおかげで、事態が好転したのは確かだった。

警官は白バイにまたがったまま、私をじっと見ていた。そしてやがて、ニッコリ笑ってこう言ったのだ。

「大丈夫だよ、うっちゃん」

声こそ違うが、その口調を忘れるはずがない。私は耳を疑い、次の瞬間には目を疑った。

白バイ警官の前歯は、きれいに半分ほど折れていたのだ。

I と端に寄り

「きつと治るよ。いっぺんさんが助けてくれる」

白バイ警官はそう言いながら、サングラスをはずした。

その顔は私の知っている顔ではなかった。だが、私が知っているあの顔が、十歳で死ぬことなく無事に成長していたとしたら、たどり着いたはずの顔のように思えた。

「……しーちゃん……なのかい？」

私の言葉に白バイ警官は、人懐っこい笑みを浮かべた。

「まさか、そんな」

私は思わずうつむき、自分の頬をつねった。鈍い痛みが確かに伝わり、これは現実だと思い直して顔をあげた。

私は **II** 掌を差し出してみた。警官は手袋の拳でそれを叩くと、同じように掌を差し出した。私は胸がいつぱいになるのを感じながら、その掌めがけて拳を振り下ろした。

拳は、ただ空を切った。手袋の掌に当たる瞬間、警官の姿は音もなく消えたからだ。

弟は頭蓋骨にヒビが入り、脳に血の塊ができていた。だが迅速な治療のおかげで、命に関わる事態にはならずすんだ。二ヶ月ほど入院し、その後は後遺症もなく無事に回復したのだ。

この時の話が家族の間で語り草になり、何度も繰り返し聞かされたのが影響したのか、成人した今、弟は白バイ警官になっている。①私は野球選手にはならなかったが、しーちゃんのように ( **b** ) を一人でも減らしたくて、何年かの回り道を経て小児科の医師になった。今では、多忙ながら充実した毎日を送っている。

① 時間が過ぎた今、あの白バイ警官は私の見間違いだったような気もしている。あの人はごく普通の警官で、しーちゃんの成長した姿のように思えたのは、混乱していた私の錯覚だったのかもしれない。

けれど、もし、あの人がいーちゃんだったとしたら——いっぺんさんは、欲深な私たちの願いを、すべて叶えてくれたのではないだろうか……と思う。

早く大人になって、白バイ警官になりたいという、しーちゃんの夢。

死んだしーちゃんにもう一度会いたいという私の願いと、弟を助けて欲しいという、もう一つの願い。

私たちがあんまり強欲すぎて、神様も **III** 困り果ててしまったのだらう。だから、きつと特別サービスというわけでもないだろ



**問五** — 線部 **A** 「事態を話す」とあるが、どのような事態だと考えられるか。あとの **A**～**E** から一つ選んで記号で答えなさい。

- A** しーちゃんが重い病気で今にも死にそうになっているという事態
- イ** 弟が事故にあり、頭を強打して死にそうになっているという事態
- ウ** 渋滞に巻き込まれて、診療の予約をとっていた病院に行けないという事態
- エ** 交通事故のケガ人を救急車で運び、病院にむかっている途中だという事態

**問六** — 線部 **B** 「自分の頬をつねった」とあるが、なぜそのような行動をとったのか。適切なものをあとの **A**～**E** から一つ選んで答えなさい。

- A** おかしくて思わず笑ってしまいそうになるのを、こらえるため
- イ** 今にも眠ってしまいそうなので、痛みで目を覚まさせるため
- ウ** 夢のようなことがおきたので、現実であることを確かめるため
- エ** 思わず驚いてしまったことを相手に知られないようにするため

**問七** — 線部 **C** 「胸がいつぱいになる」とあるが、この時の「私」の心情として最も適当なものをあとの **A**～**E** から一つ選んで記号で答えなさい。

- A** しーちゃんに再び会えたことへの喜び
- イ** 掌を叩かれたことにたいする怒り
- ウ** 自分の行動をまねすことに対する不満
- エ** 警官がしーちゃんのことを知っていたことに対する嬉しさ

**問八** — 線部 **D** 「それらの願い」とあるが、それらのうち私の願いを解答欄にあうように二つぬき出して答えなさい。

という願い

**問九** — 線部 **E** 「しーちゃんの病気が治らなかつたのはなぜだろう」とあるが、「私」は「しーちゃん」の願いが他にあったからだと考えている。それはどのような願いか、答えなさい。

問題は以上です。